

## プロフィール

ダン・タイ・ソン Dang Thai Son



ヴェトナムのハノイに生まれ、モスクワ音楽院に学ぶ。

1980年、ショパン国際ピアノコンクールで数々の特別賞とともに優勝し、アジア出身の初の快挙として大きな注目を集めた。以降、リンカーン・センター（ニューヨーク）、サル・プレイエル（パリ）、ムジークフェライン（ウィーン）など、世界40カ国以上の檜舞台で活躍を続ける。これまで、レニングラード・フィル、モントリオール響、BBC フィル、プラハ響、パリ国立管弦楽団など世界のトップ・オーケストラと、また、マリナー、ヤンソンス、パーヴォ・ヤルヴィ、アシュケナージをはじめとする著名指揮者と共演を重ねている。アイザック・スターンには、「真の音楽家」と称えられ、その美しい音色は世界中の聴衆を魅了してやまない。CDはドイツ・グラモフォン、ソニー、ビクターエンタテインメントなどから数々の名盤をリリース。2018年9月、ポーランドの文化および、国家遺産に対するの貢献者に贈られる最高位の顕彰である、「文化功労勲章」金章を受章。2021年優勝のブルース・リウはじめ、ショパンコンクールに多くの入賞者を送り出した指導者であることも、完璧なるショパンの体现者だと評される。ショパンコンクール2021の熱冷めやらぬ中、待望の来日公演となる今回、ダン・タイ・ソンの紡ぐショパン、そして、約30年ぶりのバッハとモーツァルト、ソロでは日本初披露となるベートーヴェン。現在、オーバーリン音楽院（米国）、モントリオール大学にて教鞭を執るほか、ワルシャワでのショパン国際ピアノコンクールをはじめ、多くの世界的コンクールの審査員を務め、次代のピアニストの育成にも注力している。カナダ在住。

オフィシャルサイト [www.dangthaison.net](http://www.dangthaison.net)

DANG THAI SON Piano Recital

# ダン・タイ・ソン ピアノ・リサイタル

### お問い合わせ

秋篠音楽堂 TEL 0742-35-7070 (10:00~17:00)  
〒631-8511 奈良市西大寺東町2-4-1 ならファミリー6階  
<http://www.akishino-ongakudo.com>

2022年8月26日(金) 開演19:00

秋篠音楽堂

主催 秋篠音楽堂運営協議会

ご来館の皆様へお願い



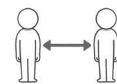
マスク着用



入場時の手指消毒



検温の実施



整列時の1m間隔



座席制限

## プログラム

### J. S. バッハ／フェインベルグ編

オルガン・ソナタ ハ長調 BWV529より ラルゴ イ短調

### W. A. モーツァルト

ピアノ・ソナタ 第11番 イ長調 KV331「トルコ行進曲付き」

I. Andante grazioso

II. Menuetto

III. Alla Turca : Allegretto

### L. v. ベートーヴェン

ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 Op.109

I. Vivace ma non troppo : Adagio espressivo

II. Prestissimo

III. Gesangvoll mit innigster Empfindung

— 休憩 —

### F. ショパン

ポロネーズ ハ短調 Op.40 No.2

4つのマズルカ op.24    No.1 ト短調  
                                  No.2 ハ長調  
                                  No.3 変イ長調  
                                  No.4 変ロ短調

3つのワルツ イ短調 遺作  
                                  へ短調 op.70, No.2  
                                  変イ長調 op.34, No.1

3つのエコセーズ Op.72 No.3

タランテラ 変イ長調 Op.43

英雄ポロネーズ 変イ長調 Op.53

## プログラムノート

### J. S. バッハ (1685-1750) / フェインベルグ編

オルガン・ソナタ ハ長調 BWV529より ラルゴ イ短調

J. S. バッハは生涯オルガンに向き合い、多くの優れた作品を遺した。BWV529は3声部が独立するトリオ・ソナタの一つで、朗らかなハ長調のアレグロにイ短調のラルゴが挟まれている。息子ヴィルヘルム・フリーデマンの教育用として1730年頃に書かれた。犀利な作品を遺した作曲家であり、高い技巧を誇るピアニストでもあったロシアのサミュエル・フェインベルグは、200年の時を経た1933年頃にラルゴをピアノ用に編曲した。翳りをみせながらも凛とした雰囲気をもと息の長い旋律を奏する独奏2声と、足鍵盤が担当する通奏低音の声部が織りなす厳かな魅力をそのまま巧みにピアノに移した味わい深い編曲版の演奏には、高度な技術が求められる。

### モーツァルト (1756-1791)

ピアノ・ソナタ 第11番 イ長調 KV331「トルコ行進曲付き」

モーツァルトのピアノ・ソナタの中でおそらく最もよく知られたこのソナタは、1783年頃に作曲されたとみられている。当時、ヨーロッパ諸国の脅威であったオスマン帝国がロシア帝国と和平条約を締結したことが社会的な関心を集め、食や服飾も含めた文化全体に異国を感じさせるトルコ・スタイルが流行し、軍楽隊に必須の打楽器や管楽器の音を模したペダルが付けられたピアノもこぞって制作された。

第1楽章では、6/8拍子で優美に揺らぐ主題がその雰囲気を持続したまま6度変奏される。第2楽章はユニゾンで始まるトリオ付きの3/4拍子のメヌエット。素朴さの中に、跳躍や急激なデュナーミクといった要素が共存する。第3楽章は2/4拍子の刻みの上に、タンバリンを思わせる装飾音や重みのある太鼓を模した強拍のアクセントが、特徴的なリズム・パターンとして歯切れ良く演奏される。

### ベートーヴェン (1770-1827)

ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 Op.109

ベートーヴェンが遺した32曲のピアノ・ソナタは、作曲家自身の様式発展の軌跡であるとともに、フォルテピアノからモダン・ピアノへと楽器が変遷した過程をも写し取っている。ベートーヴェンはオーストリア、フランス、イギリスの製作者たちの楽器を手にし、その度に拡充した音域や機能を存分に作品に取り入れた。その挑戦はこのソナタに先立つ第29番「ハンマークラヴィーア」に高度な音楽技法として結実している。1820年初頭に大作《ミサ・ソレムニス》や《第九交響曲》と並行して制作された30番から32番までの3部作は、音楽的な内容が一層掘り下げられるこ

ととなった。

2音の積み重ねによる第一主題と、朗々とした第二主題が交替する第1楽章に続いて、第2楽章がすぐに演奏され、決然とした主題が印象的なソナタ形式が展開される。第3楽章は、秘めた力強さを感じさせるたおやかな旋律が粛々と提示されたのち、リズムとハーモニーの多様な変奏が6回行われ、溶けるように終曲する。

### ショパン (1810-1849)

プログラム後半は、ショパンが愛した多彩な舞曲が並ぶ。最初に演奏されるポロネーズは、ポーランドの3拍子の民族舞踊を起源に持つ舞曲で、次第に高貴さや哀愁を感じさせる感情的な様式に変化し、国民の象徴的なスタイルとして受け入れられていった。1839年に作曲されたポロネーズ Op.40-2は、まさに心情を吐露するようなハ短調の憂鬱な情調の中で絶え間なく調が変化し、豊かな叙情性を聞かせる。

続いて演奏されるのは、華やかな躍動感を持つワルツ。3拍子の上に回顧的な雰囲気の流れが歌い続けるへ短調 Op.70-2の高潔さと、哀愁溢れる旋律に高音の装飾音とパッセージが彩りを添えるイ短調遺作と対をなすように、変イ長調 Op.34-1〈華麗なる円舞曲〉には旋回する音形や輝かしい装飾がふんだんに現れる。

ショパンはポーランド語に由来するアクセントを持つマズルカをとりわけ多く作曲した。1933-34年頃に書かれたとみられる4つのマズルカ Op.24は、物思いに耽る1番、旋回する細かい音符と3拍目のアクセントが若々しい印象を与える2番、ゆったりした3番に続き、調の判然としない冒頭から始まり、内省的な響きの中で消えるように終わる4番から成る。郷愁誘う旋律は、終始穏やかな懐かしさを湛えている。

「スコットランド風の舞曲」を意味するエコセーズは、2/4拍子の急速で激しい踊りとして、19世紀前半に流行した。3つのエコセーズ Op.72-3は二長調、ト長調、変二長調の短い3つの小曲から成り、ともに軽やかで引っ掛けるようなリズムが明るく爽やかな第1部分と、逡巡するような第2部分が交替する簡潔な構造を持つ。

タランテラ Op.43は、6/8拍子で2人あるいは3人がカスタネットとタンバリンを手に、激しい跳躍と足踏みで熱狂的に躍ったとされるイメージそのままに、絶え間なく無窮で動き回り、高い技巧を示す。

プログラム最後を飾る英雄ポロネーズ Op.53は壮麗さを湛えた傑作。一陣の風が吹くような序奏に始まり、躍動感溢れるリズムの主題を中心に、気高い旋律、機械の駆動音を思わせるユニゾンの下行音型、夢想的な旋律がめまぐるしく現れ、高揚の中に音楽的内容の充実が感じられる。

音楽学：陣内みゆき